



乳がん検診Q&A

Q マンモグラフィ検査ってなに？

A 厚生労働省が推奨する乳がん検診の検査方法です。マンモグラフィ（乳房専用のエックス線撮影装置）を使い、しこりとしてまだ触れない早期の乳がんを「影」として発見できます。



※国の指針では、40歳以上69歳以下の女性を特に受診を推奨する年齢としています。

※乳腺が密な若い人の場合は、しこりを見つけることが難しい場合があります。

※がんではないのに「要精密検査」と判定される場合や、がんがあるのに見つけれない場合があります。

Q どうやって撮影するの？

A 左右の乳房を片方ずつプラスチックの板で圧迫してはさみ、上下左右の2方向から撮影します。検査は約10分で、圧迫している時間は数十秒です。

Q エックス線撮影って、体に危険じゃないの？

A 放射線被ばく量はごくわずかで、危険はほとんどありません。

Q 要精密検査になったらどうするの？

A 実際にはがんであるとは限りません。必ず精密検査（保険診療）を受けましょう。乳がんの精密検査の方法は、マンモグラフィ検査（追加撮影）、超音波検査、細胞診や生検などがあります。詳しくは、精密検査を実施する医療機関の医師とよくご相談ください。



令和6年度大田区乳がん検診

対象者	40歳以上の女性
検診内容	質問 マンモグラフィ検査（乳房エックス線検査） 視触診（任意項目）
自己負担額	500円
受診間隔	2年に1回

詳細は大田区ホームページをご覧ください。

大田区 がん検診等



お知らせ



令和6年度より、国の指針に基づき乳がん検診の受診間隔が2年に1回となります。令和5年度に大田区の乳がん検診を受診した方は、令和6年度は受診できません。

ピンクリボンを知っていますか？



ピンクリボンは、アメリカの乳がんで亡くなられた患者さんの家族が、「このような悲劇が繰り返されないように」との願いを込めて作ったリボンからスタートした、乳がんに関する啓発運動のシンボルマークです。



©大田区

令和6年6月発行

大田区 健康政策部 健康づくり課 検診事業担当

〒144-8621

大田区蒲田五丁目13番14号 大田区役所 本庁舎

電話 03 (5744) 1265 FAX 03 (5744) 1523

<OSK-3-A>

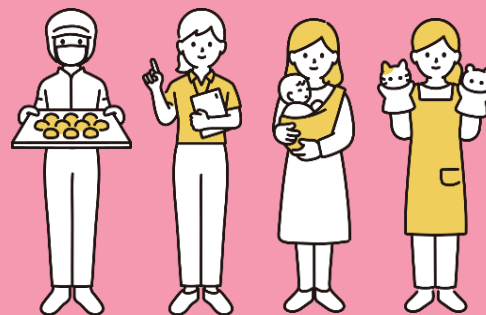


大田区

あなたと

乳がん検診と

ブレスト・アウェアネス



1/9

日本人女性の9人に1人が
かかるとされる乳がんは
早期発見により90%が治ります※

※5年相対生存率



乳がんとは？

乳がんはわが国の女性におけるがん死亡の上位に位置し、**9人に1人がかかるとされています。**

現在のところ、一般的には乳がんを予防する方法はありません。しかし、**早期のがん（直径2cm以下）であれば、がんの進行は少なく、より高い確率で治すことができます。**

また、**初期のがんであれば、治療費用の金額や体への負担も少なくなります。**

乳がんの危険因子

- 1 年齢(40歳以上)
- 2 未婚の人
- 3 高齢初産の人(出産をしていない人)
- 4 初潮が早く、閉経が遅い人
- 5 肥満の人(閉経後)
- 6 血縁者に乳がんになった人がいる
- 7 良性の乳腺疾患になったことがある
- 8 乳がんになったことがある
- 9 閉経後ホルモン補充療法・経口避妊薬使用の経験がある(欧米では危険因子とされているが、日本人でははっきりしていない)

【参考】厚生労働省「がん検診手帳」

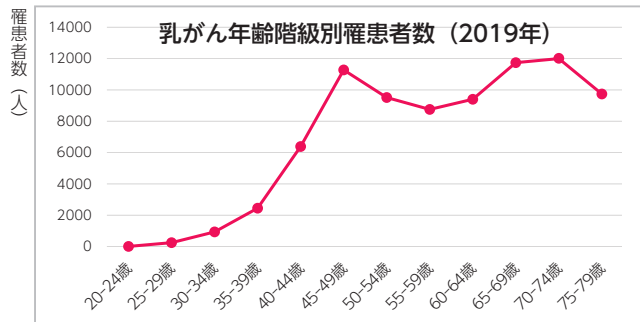


ブレスト・アウェアネスとは？

ブレスト・アウェアネスとは、「**乳房を意識する生活習慣**」のことです。

乳がんは自覚症状を認めることにより、発見される場合があります。

そのため、乳がんの罹患率が増えはじめる**30歳代**からは、ブレスト・アウェアネスを生活習慣に取り入れ、乳がんの早期発見、早期治療につなげましょう。



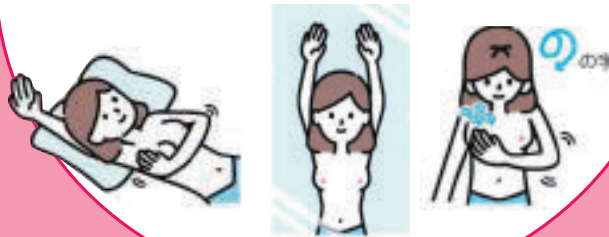
年齢(歳) 【参考】国立がん研究センター がん情報サービス

1

乳房の状態を知る

乳房を見て、触って、変化を感じる事が重要です。

着替えや入浴中、寝る前等のタイミングに、乳房を意識する習慣をつけましょう。月経周期による変化を知ることも重要です。



2

乳房の変化に気をつける

特に気をつけなければいけない乳房の変化は以下のとおりです。

乳房の腫瘍	新たにしこりを見つけたたり、しこりが硬くなったと感じたら、医療機関を受診しましょう。(良性の場合もあります。)
乳頭分泌	乳頭から黒い赤色や褐色の異常分泌があった場合は、医療機関を受診しましょう。
乳頭や乳輪のびらん	乳頭や乳輪の皮膚のただれやびらんは皮膚の病気の可能性もありますが、乳がんの早期の症状の場合もあります。医療機関を受診しましょう。
皮膚の凹みや引きつれ	乳房の皮膚に凹みや引きつれを感じたら、医療機関を受診しましょう。
乳房痛	乳房の痛みは乳腺症(良性病変)が原因のこともあります。乳がんの症状の場合もあります。医療機関を受診しましょう。

ブレスト・アウェアネス4つのポイント

3

変化に気づいたら、医療機関で診察を受ける

乳房の変化のすべてが乳がんの症状とは限りませんが、乳がんの早期の症状の可能性もあるため、なるべく早く、乳腺専門医のいる医療機関で診察を受けましょう。



4

40歳になったら、2年に1回乳がん検診を受診する

40歳以降は、2年に1回、定期的に乳がん検診(マンモグラフィ検査)を受けましょう。検診では、まだ自覚症状として現れない、小さながんを発見することが可能です。



大田区主催
がん講演会
動画配信中!



がん検診について、国立がん研究センターの専門医がわかりやすく解説しています。ぜひご覧ください。



大田区 がん検診講演会



医療機関を
お探しの方



厚生労働省の医療機関案内サービスで乳腺専門医のいる医療機関を検索してください。



医療情報ネット(ナビイ)

